

令和 6 年度 横川東小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

心身ともに健康で、よく考えて判断する力と、自主的に行動するたくましい実践力をもち、誠実で思いやりがあり、豊かな心をもった児童の育成を目指す。

- ・素直で思いやりのある子（なかよく）
- ・よく学び工夫する子（まなび）
- ・健康でたくましい子（あそび）
- ・進んでやりぬく子（がんばる）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

家庭や地域等と協働しながら、教職員一人一人が、豊かな人間性を基盤に自己研鑽に努め、指導力を高めながら計画的かつ効果的に教育活動を展開する「信頼される学校」、個別最適な学びと協働的な学びのある授業実践により、児童一人一人が生き生きと学び活動する「活気あふれる学校」、互いを思いやり、助け合い、励まし合いながら、安全で楽しく生活できる「喜びのある学校」づくりを推進し、学校教育目標の具現化を目指す。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- （１）「すなおで思いやりのある子」の育成を目指し、道徳科や特別活動における指導支援の充実に努め、友達や異学年児童、地域の方々等との様々な関わりの中で、児童一人一人のよさを生かし伸ばすとともに、互いに認め合い、助け合い、励まし合える豊かな人間関係を築くことができる教育活動に取り組む。
- （２）「よく学び工夫する子」の育成に向け、個別最適な学びと協働的な学びのある授業展開や教科担任制の実施等により、学習意欲の向上及び基礎学力の定着を目指した教育活動の充実に図る。
- （３）「健康でたくましい子」の育成に向け、基本的な生活習慣を身に付けるとともに、主体的に健康な体づくりに取り組む力、自ら危険を予測して回避できる力を高める教育活動に取り組む。
- （４）「進んでやりぬく子」の育成を目指し、農園活動や校外学習、外部講師による授業による体験的な活動、学級活動や児童会活動、クラブ活動、学校行事等において児童が主体的に取り組む場を意図的に設けながら、めあてや目標に向かって、粘り強くやり抜く態度を育成する。
- （５）「地域とともにある学校」として、伝統ある校風を基盤に、地域協議会や企業等との連携を図り、児童の実態や地域の特色等を踏まえた体験的な活動を効果的に取り入れる。
- （６）教職員一人一人が心身ともに健康で、職責に対する自覚と強い使命感を持って、絶えず研究と修養に努めながら、自身のよさや専門性を生かした教育に取り組む。また、「働き方改革」の視点に立ち、職場環境並びに業務改善の取組を推進するとともに、自身のキャリアプラン構想を大切に、常日頃からメリハリのある勤務を心がける。

〔横川地域学校園教育ビジョン〕

豊かな心の育成を目指す、横川地域学校園の小中一貫教育

～自分・人・地域を大切に、主体的に行動できる子どもの育成を目指して～

4 教育課程編成の方針

- （１）教育基本法をはじめとする関係法令、小学校学習指導要領、県教育委員会の指導指針、宇都宮市学校教育スタンダード、学校経営の方針等に基づき、学校及び児童の実態を十分に踏まえ、家庭・地域との連携・協働による「社会に開かれた教育課程」を編成する。
- （２）教育活動全般を通して、特色ある教育活動を展開し、豊かな人間性と基礎・基本を身に付けさせるとともに、個性を生かしたり、知・徳・体のバランスを大切にしたりしながら「生きる力」を育む教育課程を編成する。
- （３）家庭・地域の教育力を活用し、広がりをもった教育活動が実践できるよう教育課程を編成する。
- （４）地域学校園内の各学校と連携を図り、小中一貫教育の趣旨を踏まえた教育課程を編成する。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- （１）学校運営 「安全」「あいさつ」「ありがとう」の３つを基盤に、家庭や地域等と連携協力し、諸課題等の解決に向け組織的・継続的に取り組み工夫改善を図りながら、本校ならではの特色ある教育活動の充実に努める。
- 【重点目標】①確かな学力の育成 ②豊かな心の醸成 ③健康な体づくり ④教職員一人一人のよさを生かせる環境づくりと、キャリアプランや働き方にかかる意識の高揚
- （２）学習指導 他者と協働しながら、自ら未来を拓いていく子どもの育成
- （３）児童生徒指導 思いやりの心を育むとともに、きまりやマナーを身に付け、励まし合いながら生活する児童の育成
- （４）健康（保健安全・食育）・体力 自らの健康面や体力面のよさや課題をよく知り、自分に応じたためあての実現のために、自ら判断し、進んで活動に取り組むことができる児童の育成力

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標（小・中学校共通、地域学校園共通を含む）

※「主な具体的な取組の方向性」には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価						
1ー(1) 確かな学力を育む教育の推進	A 1 児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、学習課題を解決するために、友達と話し合ったり、必要な情報を集めたりしながら、じっくり考え、進んで学習に取り組んでいる。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答85%以上	○①「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて以下の点に留意して授業を行う。 ・課題解決においては、見通しをもって取り組ませ、児童が自分の伸びや変化を自覚できるように振り返りをさせる。 ・個々の考えをつなぐ発表の仕方を指導する。(話型や発表方法の提示等) ・児童が興味関心を持って取り組める課題を設定し、各教科における見方・考え方を働かせるように、教材やICT等を効果的に活用したり授業の展開を工夫したりする。 ②「横東小スタンダード」「話の聞き方」「話し方」を基本とし、学習時のきまりの徹底を図るとともに、学年に応じた話の聞き方、話し方を系統立てて指導する。また、考えを比較したり深めたりできるよう、教師のコーディネートを工夫する。 ③校内授業研究会や一人一授業では、以下の点に留意して授業を行い、授業改善に取り組む。 ・単元や授業における導入の工夫 ・学習の流れと板書計画の一体化 ・ペア学習やグループ学習の効果的な設定 ・「話し合い活動」の目的や方法の明確化 ・振り返りの視点の精選と明確化	B	【達成状況】 <table><tr><td>児童の肯定的回答</td><td>90.6%</td></tr><tr><td>教職員の肯定的回答</td><td>97.1%</td></tr><tr><td>保護者の肯定的回答</td><td>88.7%</td></tr></table> ・主体的・対話的で深い学びの実現に向け、研修会を通して教職員の共通理解を図りながら、課題設定やICTを活用した授業展開の工夫等に取り組んできた。 ・校内授業研究会や一人一授業において、指導法や有効な手立てについての研究協議を通してよりよい授業について学び、日々の授業実践に生かすことができた。 【次年度の方針】 ①個々の考えをつなぐ発表の仕方を指導するための話型や発表方法の掲示等を学校全体で統一し、掲示を工夫する。 ②「横東小スタンダード」を基本とし、学習時のきまりの徹底を図る。また、考えを比較したり深めたりできるよう、教師のコーディネートを工夫する。 ③日々の授業から以下の点に留意して授業を行い、授業改善に取り組む。 ・単元や授業における導入の工夫 ・学習の流れと板書計画の一体化 ・ペア学習やグループ学習の効果的な設定 ・「話し合い活動」の目的や方法の明確化 ・振り返りの視点の精選と明確化	児童の肯定的回答	90.6%	教職員の肯定的回答	97.1%	保護者の肯定的回答	88.7%
児童の肯定的回答	90.6%									
教職員の肯定的回答	97.1%									
保護者の肯定的回答	88.7%									

1ー(2) 豊かな心を 育む教育の 推進	A 2 児童は、思いやりの心 をもっている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、誰 に対しても思いやりの心をも って優しく接している。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 80%以上	①体験活動や他の教育活動と関連を 図った道徳科の授業を実施し、認め励 ますような言葉かけやワークシート 等へのコメントを記すことで、自己肯 定感や人を思いやる心などの涵養を 図る。 ②朝や帰りの会、昼休みの共遊、授業 等において、児童が互いを認め合う場 を設定し、望ましい人間関係を築く力 を養う。 ③クラブ活動や縦割り班での清掃、遊 びなど異学年交流活動を通して、助け 合う心や思いやりの心を育てる。 ④人権教育年間指導計画に基づき、教 科や日常生活全般において、人権教育 を意図的・計画的に実施するとともに、人 権週間や教育相談の充実を図る。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答 90.6% 教職員の肯定的回答 97.1% 保護者の肯定的回答 92.9% 地域住民の肯定的回答 82.4% ・体験活動や道徳科の授業を行ったり、 縦割り班活動で異学年交流を行ったり することを通して、自己肯定感や人 を思いやる心の涵養が図れた。 ・児童が互いに認め合う場を設定する ことで望ましい人間関係を築くこと ができた。 【次年度の方針】 ①体験活動や他の教育活動と関連を 図った道徳科の授業を実施し、認め励 ますような言葉かけやワークシート等への コメントを記すことで、自己肯定感や人 を思いやる心などの涵養を図る。 ②朝や帰りの会、昼休みの共遊、授業等 において、児童が互いを認め合う場を設 定し、望ましい人間関係を築く力を養 う。 ③クラブ活動や縦割り班での清掃、遊び など異学年交流活動を通して、助け合う 心や思いやりの心を育てる。 ④人権教育年間指導計画に基づき、教科 や日常生活全般において、人権教育を意 図的・計画的に実施するとともに、オー プンスクールや学校ホームページを通 して地域住民に周知する。
	A 3 児童は、目標に向かっ てあきらめずに、粘り強 く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、目 標に向かってあきらめずに、 粘り強く取り組んでいる。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 85%以上	①道徳科の授業や行事等の教育活動、 キャリアパスポートの活用を通して、 夢や目標をもつことの大切さを理解 させるとともに、折れない心ややり抜 く心のたくましさを涵養する。 ②漢字・計算オリンピックや各種検定 等において、児童が目標をもって取り 組む機会を設けるとともに、目標の達 成に向けて努力している児童を称賛 する。 ③児童の自己肯定感を高められるよう 、児童相互に認め合う場を数多く設 け、児童相互に認め合う場を数多く設 けるとともに、横東っ子きらきら表彰 (年3回)を通し、目標達成に向けて 努力している児童を称賛するととも に、日常の学校生活の中で担任や教科 担任も児童の頑張りを認め励ます指 導に努める。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答 87.5% 教職員の肯定的回答 97.1% 保護者の肯定的回答 85.0% ・各種検定やキャリアパスポートを通 して、児童が目標を持って取り組みを 実施できた。 ・児童指導部会を開催することにより、 児童の実態把握やきまりの確認を適 宜行うことができた。 【次年度の方針】 ①道徳科の授業や行事等の教育活動、キ ャリアパスポートの活用を通して、夢 や目標をもつことの大切さを理解させ るとともに、諦めずに最後まで粘り強 く取り組む姿勢を育成する。 ②漢字・計算オリンピックや各種検定等 において、児童が目標をもって取り組 む機会を設けるとともに、目標の達成 に向けて努力している児童を称賛する。 ③児童の自己肯定感を高められるよう 、児童相互に認め合う場を数多く設 ける。また、横東っ子きらきら表彰(年 3回)を通し、目標達成に向けて努力し ている児童を称賛するとともに、日常 の学校生活の中で担任や教科担任も 児童の頑張りを認め励ます指導に努 める。

1ー(3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	A 4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」 ⇒教職員・保護者の肯定的回答 85 %以上	①感染症等の予防について正しく理解できるよう保健指導を行ったり家庭にも協力を求めたりしながら、児童が引き続き、自他の健康や安全に気を付けながら新しい生活様式に基づき、自己管理できるよう声をかけていく。 ②関連教科や学校給食の指導を通して、栄養のバランスのとれた食事や望ましい食習慣の形成を図る。 ③火災または地震・竜巻等の自然災害の発生に備えた避難訓練（授業時間とそれ以外の時間）、交通安全教室・防犯教室・作成した「横東小安全マップ」を活用し、安全への意識付けを図る。 ④体育の授業に持久走やなわ跳び、サーキットトレーニング等を継続的に取り入れたり、元気っ子チャレンジへの参加を取り入れたりして運動量を確保し児童の体力向上を図るとともに、ICT を有効に活用して授業の充実に努める。	【達成状況】 <table><tr><td>児童の肯定的回答</td><td>91.6%</td></tr><tr><td>教職員の肯定的回答</td><td>85.7%</td></tr><tr><td>保護者の肯定的回答</td><td>90.8%</td></tr><tr><td>地域住民の肯定的回答</td><td>100.0%</td></tr></table> ・感染症に対する予防意識が低下している様子が見られる。 ・学校としての取り組みを地域住民に認識する機会が少ない。 ・持久走月間が廃止された分、サーキットトレーニングの充実や外遊びの習慣化が必要。 【次年度の方針】 ①感染症等の予防について正しく理解できるよう保健指導を行ったり家庭にも協力を求めたりしながら、児童が引き続き、自他の健康や安全に気を付けながら、自己管理できるよう声をかけていく。 ②関連教科や学校給食の指導を通して、栄養のバランスのとれた食事や望ましい食習慣の形成を図る。 ③火災または地震・竜巻等の自然災害の発生に備えた避難訓練（授業時間とそれ以外の時間）、交通安全教室・防犯教室・作成した「横東小安全マップ」を活用し、安全への意識付けを図る。 ④体育の授業になわ跳び、サーキットトレーニング等を継続的に取り入れたり、元気っ子チャレンジへの参加を取り入れたりして運動量を確保し児童の体力向上を図るとともに、ICT を有効に活用して授業の充実に努める。	児童の肯定的回答	91.6%	教職員の肯定的回答	85.7%	保護者の肯定的回答	90.8%	地域住民の肯定的回答	100.0%
児童の肯定的回答	91.6%										
教職員の肯定的回答	85.7%										
保護者の肯定的回答	90.8%										
地域住民の肯定的回答	100.0%										
1ー(4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A 5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 全体アンケート「私は、自分の良さや考えを生かしたり、周りと協力し合ったりして、進んで生活をよりよくしようとしている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 80 %以上	①授業の話合いや発表の場、朝や帰りの会、昼休みの共遊等において、児童が自分のよさを感じたり、友達を認め合ったりする場を設定し、進んでよりよい生活をしようとする力を養う。 ②縦割り班での清掃や遊び、クラブ活動など、異学年交流活動を通して、助け合う心や思いやりの心を育てる。	【達成状況】 <table><tr><td>児童の肯定的回答</td><td>89.1%</td></tr><tr><td>教職員の肯定的回答</td><td>97.1%</td></tr></table> ・様々な場面で自分のよさを感じたり友達と認め合ったりする場を意図的に設け、思いやりの心を育むことで協力して生活をよりよくしようとする力を育むことができた。 【次年度の方針】 ①授業の話合いや発表の場、朝や帰りの会、昼休みの共遊等において、児童が自分のよさを感じたり、友達を認め合ったりする場を設定し、進んでよりよい生活をしようとする力を養う。 ②縦割り班での清掃や遊び、クラブ活動など、異学年交流活動を通して、助け合う心や思いやりの心を育てる。 ③キャリアパスポート等を活用し、学期や年間を通して自分の頑張りと成長を振り返る時間を設ける。	児童の肯定的回答	89.1%	教職員の肯定的回答	97.1%				
児童の肯定的回答	89.1%										
教職員の肯定的回答	97.1%										

A 6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、外国語活動（英語）の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 85%以上	①外国語活動や外国語の授業を通じて、言語や文化について理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 ②英語専科教員を中心に外国語活動・外国語に関する校内研修や授業を参観する機会を充実させたり、ALTとの連携を充実したりすることにより、教員の指導力の向上を図る。 ③カレンダー・天気などの英語の掲示物カードを各学級に配付したり、特別教室の英語の表記を活用したりして、日常的に英語に親しみ、英語でコミュニケーションを図る態度を育成する。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答 82.2% 教職員の肯定的回答 91.4% ・英語専科教員を中心とした外国語活動や外国語の授業を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度が育ってきた。またALTによる給食の献立紹介により、英語に触れる機会が増えた。 【次年度の方針】 ①外国語活動や外国語の授業を通じて、言語や文化について理解を深め、積極的に児童同士でもコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 ②英語専科教員を中心に外国語活動・外国語に関する校内研修や授業参観する機会を充実させ、学級担任の指導力の向上を図る。
A 7 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、宇都宮の良さを知っている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 85%以上	①生活科・社会科・総合的な学習の時間の「宇都宮学」の授業や、百人一首に親しむことのできる学習を通して、児童が身近な地域や宇都宮市の良さに気付く指導に努める。 ②「宇都宮学」の年間指導計画を基に、教師自身が宇都宮市の歴史、文化、伝統産業、特産物等について理解を深めるよう努める。 ③市の施設巡りや校外学習などの充実を図り、宇都宮市の良さについて、実際に見たり体験したりすることを通して、宇都宮の良さに気付くことができるよう指導する。 ④宇都宮についての学習の状況や成果について、学年だよりに宇都宮学コーナーを設けたりホームページに掲載したりすることにより、周知に努める。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答 88.1% 教職員の肯定的回答 82.9% 保護者の肯定的回答 77.7% ・生活科・社会科・総合的な学習の時間の「宇都宮学」の授業を通して、児童が身近な地域や宇都宮市の良さに気付くことができた。 ・校外学習などの行事によって、宇都宮市の良さを体験することができた。 【次年度の方針】 ①生活科・社会科・道徳・総合的な学習の時間の「宇都宮学」の授業や、百人一首に親しむことのできる学習を通して、児童が身近な地域や宇都宮市の良さに気付く指導に努める。 ②「宇都宮学」の年間指導計画を基に、宇都宮市の歴史、文化、伝統産業、特産物等について理解を深めるよう努める。 ③市の施設巡りや校外学習などの充実を図り、宇都宮市の良さについて、実際に見たり体験したりすることを通して、宇都宮の良さに気付くことができるよう指導する。

2- (2) 情報社会と 科学技術の 進展に対応 した教育の 推進	A 8 児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 85%以上	①児童がコンピューターや情報通信ネットワークなどの情報手段に親しんだり、プログラミングの授業で操作をしたりすることを通して、適切に活用する能力を育成できるよう、授業において積極的に ICT 機器を活用する。 ②学習に役立つ図書及び図書以外の資料を活用して、学習の効果を高められるよう各学年のその時期の授業内容との関連に配慮した教育図書の整備充実や市立図書館との連携等、学校図書館の環境整備に努める。 ③「まなびポケット」の運用に向けた校内研修を充実させ、状況に応じた学習指導ができるよう準備を進めていく。 ④ G I G A スクール構想による一人一台のタブレット端末を積極的に使用し、ICT 機器を学習に活用する機会を増やしていく。	【達成状況】 児童の肯定的回答 90.9% 教職員の肯定的回答 100.0% 保護者の肯定的回答 86.8% 【次年度の方針】 ・授業において一人一台のタブレット端末を積極的に使用し、ICT 機器を学習に活用することができた。 ・ICT の効果的な活用について研究をしてきたことで、各教科でスクールタクトやキャンパなどのソフト等を使って個に応じた指導の充実を図ることができた。 ・市立図書館との連携を図り、学習に必要な書籍をそろえて活用することができた。 【次年度の方針】 ①学習に役立つ図書を活用して、学習の効果を高められるよう各学年のその時期の授業内容との関連に配慮した教育図書の整備充実や市立図書館との連携等、学校図書館の環境整備に努める。 ②ICT の効果的な活用を積極的に考える。教師自身が使うべき時を見極める。(図書資料・ICT の使い分け)
2- (3) 持続可能な 社会の実現 に向けた担 い手を育む 教育の推進	A 9 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 80%以上	①普段の生活の中でも節水や節電、リサイクル活動等を意識させたりし、環境と調和しながら生きる意識や態度を育成する。 ②総合的な学習の時間や社会科等の授業、宇都宮市の SDG s への取組の紹介等を通して「持続可能な社会」の内容について知り、環境問題への関心を高めさせる。 ③人権教育年間指導計画に基づき、全教育活動を通して人権教育を計画的に実施する。 ④東日本大震災をはじめとした過去の災害の具体事例から学ぶ教材を工夫し、防災教育を充実させる。	【達成状況】 児童の肯定的回答 88.0% 教職員の肯定的回答 68.6% ・節水やアルミ缶回収への協力など、普段の生活の中で意識的に取り組んでいるが、環境問題への関心がまだ低い。 【次年度の方針】 ①普段の生活の中でも節水や節電、リサイクル活動等を意識させ、環境と調和しながら生きる意識や態度を育成する。 ②総合的な学習の時間や社会科等の授業、宇都宮市の SDG s への取組の紹介等を通して「持続可能な社会」の内容について知り、環境問題への関心を高めさせる。 ③特別活動を通して、SDG s について掲示や発表等をして広めていく。

3- (1) インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進	A10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート「教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上	①特別支援教育コーディネーターや児童指導主任を中心に校内支援委員会やケース会議を適宜開催して支援の方針を確認したり、職員会議後の情報交換を実施して全教職員が特別な支援を必要とする児童に関する共通理解を図ったりすることで、一人一人のニーズを踏まえた支援を組織的に行う。 ②特別支援学級の児童はもとより、通常学級においても、特別支援教育に関する研修を深め、必要に応じて個別の支援計画の作成し、それに基づく合理的な配慮を伴う指導に努めるとともに、適切な支援を行えるようかがやきルームやスクールカウンセラーの効果的活用を推進したり、専門機関との連携を図ったりしていく。	【達成状況】 教職員の肯定的回答 94.3% ・特別支援コーディネーターを中心に、一人一人のニーズに合わせて適切に支援を行うことができた。 ・普通学級においても、個別の支援計画を生かして個別に適切な支援を行うことができた。 【次年度の方針】 ①特別支援教育コーディネーターや児童指導主任を中心に校内支援委員会やケース会議を適宜開催して支援の方針を確認したり、職員会議後の情報交換や児童指導部会を実施して、定期的に全教職員が特別な支援を必要とする児童に関する共通理解を図ったりすることで、一人一人のニーズを踏まえた支援を組織的に行う。 ②特別支援学級はもとより、通常学級における特別支援教育に関する研修を深め、必要に応じて個別の支援計画の作成し、それに基づく合理的な配慮を伴う指導に努めるとともに、適切な支援を行えるようかがやきルームやスクールカウンセラーの効果的活用を推進したり、専門機関との連携を図ったりしていく。
3- (2) いじめ・不登校対策の充実	A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、いじめ対策に熱心に取り組んでいる。」 ⇒教職員・保護者の肯定的回答 90%以上 「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	①朝や帰りの会、昼休みの共遊、授業等において、児童が互いを認め合う場を設定し、望ましい人間関係を築く力を養う。 ②学校生活アンケートや Q-U を活用したり、教育相談を適宜行ったりしていくことで児童理解に努めるとともに、定期的に児童指導委員会を開催することで組織的にいじめの早期発見・早期対応に努めていく。 ③「いじめゼロ集会」等の計画や実施を児童が主体的に取り組めるよう支援し、活動を通して自分たちでいじめのない学校をつくろうという意識をもたせる。 ④道徳の授業や学級活動の話し合いを中心に、各教科指導において人権に関する内容を繰り返し指導する。	【達成状況】 児童の肯定的回答 97.4% 教職員の肯定的回答 94.3% 保護者の肯定的回答 82.9% 地域住民の肯定的回答 87.5% ・学校生活アンケートや教育相談を活用し、児童理解に努め、いじめの早期発見へとつなげ、指導を行った。 ・定期的に児童指導部会を開催し、学年、学校で情報を共有することで組織的に問題を検討し、対応することができた。 【次年度の方針】 ①朝や帰りの会、昼休みの共遊、授業等において、児童が互いを認め合う場を設定し、望ましい人間関係を築く力を養う。 ②学校生活アンケートや Q-U を活用したり、教育相談を適宜行ったりしていくことで児童理解に努めるとともに、定期的に児童指導部会を開催することで組織的にいじめの早期発見・早期対応に努めていく。 ③よりいじめの早期発見につながるように、学校生活アンケートや教育相談の事前アンケートの質問項目が適切な内容になっているか改めて検討し、改善する。 ④「いじめゼロ集会」等の計画や実施を児童が主体的に取り組めるよう支援し、活動を通して自分たちでいじめのない学校をつくろうという意識をもたせる。 ⑤道徳の授業や学級活動の話し合いを中心に、各教科指導において人権に関する内容を繰り返し指導する。

	A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケート「先生方は、一人一人を大切に、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 85%以上	①児童の自己肯定感を高められるよう、児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、横東っ子きらきら表彰（年3回）を通し、目標達成に向けて努力している児童を称賛する。また、担任や教科担任も認め励ます指導に努める。 ②教育相談、アンケート、Q-U検査等の結果を活用し不応傾向のある児童の早期発見と対応に努める。また、定期的に児童指導委員会等を開き、関係職員が不登校の兆候や傾向の児童に関する情報共有を図り、児童が安心して相談できる環境を整えたり、よりよい支援の方法を工夫したりするなど学校全体で組織的に対応する。	【達成状況】 <table><tr><td>児童の肯定的回答</td><td>95.7%</td></tr><tr><td>教職員の肯定的回答</td><td>94.3%</td></tr><tr><td>保護者の肯定的回答</td><td>90.2%</td></tr></table> ・児童の自己肯定感を高められるよう、各学級で、児童相互に認めあう場を意図的に設けた。 ・教育相談や学校生活アンケートを活用して、児童の困り感や悩みを早期に把握し、対応することができた。 【次年度の方針】 ①児童の自己肯定感を高められるよう、児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、横東っ子きらきら表彰（年3回）を通し、目標達成に向けて努力している児童を称賛する。また、担任や教科担任も認め励ます指導に努める。 ②教育相談、アンケート、Q-U検査等の結果を活用し不応傾向のある児童の早期発見と対応に努める。また、定期的に児童指導部会を開き、関係職員が不登校の兆候や傾向の児童に関する情報共有を図り、対応を検討することで、児童が安心して相談できる環境を整えたり、よりよい支援の方法を工夫したりするなど学校全体で組織的に対応する。 ③日頃から、保護者との情報交換を密にすることで、保護者との信頼関係を築き、児童の実態を捉えたり、相談しやすい環境を整えたりする。	児童の肯定的回答	95.7%	教職員の肯定的回答	94.3%	保護者の肯定的回答	90.2%		
児童の肯定的回答	95.7%										
教職員の肯定的回答	94.3%										
保護者の肯定的回答	90.2%										
3-（3） 外国人児童生徒等への適応支援の充実 3-（4） 多様な教育的ニーズへの対応の強化	A13 学校は、一人一人が大切にされ、活があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケート「教職員は、児童の悩みに寄り添い、相談に乗ったり、問題の解決に努めたりして、児童が明るくいいきと学校生活を送れるようにしている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 85%以上	①「分かった、できた」喜びを味わえる話し合い活動やまとめ・振り返り活動を大切にしたい授業を展開したり、潤いのある日課や学校行事を工夫したりする中で、居心地のよい学級や学校づくりに努めていく。 ②学校行事や児童集会、授業やクラブ活動等において、児童の主体的な学びにつながる活動の場を意図的に設定し、内容を充実させていく。 ③児童会の活性化により、委員会活動の充実や縦割り割班遊びの工夫を図り、児童の自主性を生かした取組に努める。	【達成状況】 <table><tr><td>児童の肯定的回答</td><td>96.9%</td></tr><tr><td>教職員の肯定的回答</td><td>100.0%</td></tr><tr><td>保護者の肯定的回答</td><td>88.6%</td></tr><tr><td>地域住民の肯定的回答</td><td>100.0%</td></tr></table> ・主体的・対話的で深い学びを意識した授業展開を実践することにより、児童が「できた、分かった」という達成感を味わうことにつながった。 ・委員会活動や縦割り班活動において、児童の主体的な活動を取り入れて行ったことにより、児童の自主性を高めることにつながった。 ・縦割り班遊びが年間を通して適切に位置付けられるようにする。 【次年度の方針】 ①「分かった、できた」喜びを味わえる話し合い活動やまとめ・振り返り活動を大切にしたい授業を展開したり、潤いのある日課や学校行事を工夫したりする中で、居心地のよい学級や学校づくりに努めていく。 ②学校行事や児童集会、授業やクラブ活動等において、児童の主体的な学びにつながる活動の場を意図的に設定し、内容を充実させていく。 ③児童会の活性化により、委員会活動の充実や縦割り割班遊びの工夫を図り、児童の自主性を生かした取組に努める。	児童の肯定的回答	96.9%	教職員の肯定的回答	100.0%	保護者の肯定的回答	88.6%	地域住民の肯定的回答	100.0%
児童の肯定的回答	96.9%										
教職員の肯定的回答	100.0%										
保護者の肯定的回答	88.6%										
地域住民の肯定的回答	100.0%										

4- (1) 教職員の資 質・能力の 向上	A14 教職員は、分かる授業 や児童にきめ細かな指導 を行い、学力向上を図っ ている。 【数値指標】 全体アンケート「先生方の授 業は分かりやすく、一人一人 に丁寧に教えてくれる。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 85%以上	①「分かる授業」や「できた喜びを味 わえる授業」をめざして学年会等の機 会を有効に活用し、教科指導の共通理 解や教材研究に努める。 ②学校課題に即して教材研究や授業 研究に積極的に取り組み、授業力の向 上を図るとともに、一人一人の教員の よさと専門性を生かして、教科担任制 を推進していく。 ③学校だよりやホームページなどを 活用し、学力向上の取組や児童の成長 の様子を伝えるなど、情報発信にも努 める。 ④学習指導法（少人数指導・習熟度や T.T学習・かがやきルームの活用等） の工夫改善を図り、一人一人に応じた 指導に努める。	【達成状況】 児童の肯定的回答 97.5% 教職員の肯定的回答 100.0% 保護者の肯定的回答 88.1% ・各種研究授業や学年会等において、学 年の課題を把握し、教科指導や教材の ポイントを共有して学力の向上を図 ることができた。 ・一人一人の教員のよさと専門性を生 かし、学習指導法の工夫改善を図るこ うことができた。特に、学校課題の算数の 授業を中心に学年で研究を深め、児童 の学力向上を図ることができた。 ・ホームページや学年だより、各種たよ りを活用し、学校での活動の様子や児 童の様子などの情報発信をすることが できた。
		B 【次年度の方針】 ①「分かる授業」や「できた喜びを味わ える授業」をめざしてあらゆる機会を活 用し、教科指導の共通理解や教材研究に 努める。特に、めあてやまとめ、ふりか えりなど授業の流れを学校全体で統一 した型を作り、活用する。 ②学年の連携をさらに深めながら、学校 課題に即した教材研究や授業研究に積 極的に取り組み、学校全体の授業力の向 上を図る。 ③学校だよりやホームページなどを活 用し、学力向上の取組や児童の成長の様 子を伝えるなど、情報発信にも努める。 ④学習指導法（少人数指導・習熟度や T.T学習・かがやきルームの活用等）の 工夫改善を図り、一人一人に応じた指導 に努める。	

A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。

【数値指標】

全体アンケート「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」

⇒教職員の肯定的回答90%以上

①教職員の協働性を高めることに視点を置き、教科指導や学校行事等において、教職員の得意分野や持ち味が生きる組織運営に努めるとともに、困難を感じる業務について気軽に相談し、助け合える雰囲気大切に合う。

②学校内における多様な学校スタッフが、それぞれの専門性を生かして学習指導や児童指導、学校行事における支援、環境整備等に協力し、教育活動を充実させる。

③教員と専門性を有するスタッフが報告・連絡・相談を密にして連携し、各教科年間計画や各種教育年間計画を基に役割分担を明確にして教育活動や環境整備に当たれるよう、円滑なコミュニケーションを図る。

【達成状況】

教職員の肯定的回答 97.1%

- ・昨年より肯定的回答は、やや下がったが、引き続き高い数値を保っている。
- ・学習指導、学校行事の計画・運営等において、ベテランと中堅・若手教員がそれぞれの役割を明確にし、よさを生かしながら、計画的に教育活動を実践することができた。指導部会でも中堅教員がリーダーとなって、教育活動の見直しをおこなうことができた。
- ・栄養教諭や養護教諭、ICT支援員による授業への参画、司書教諭による読書活動の推進、学校業務職員による学校環境整備等、積極的な関わりをもつことができた。

B

【次年度の方針】

①教職員の協働性を高めることに視点を置き、教科指導や学校行事等において、教職員の得意分野や経験が生きる組織運営に努めるとともに、助け合える雰囲気を醸成する。引き続き指導部会の積極的な運営を行う。

②学校内における多様なスタッフが、それぞれの専門性を生かして学習指導や児童指導、学校行事等における支援、環境整備等に協力し、教育活動を充実させる。

③教員と専門性を有するスタッフが報告・連絡・相談を密にして連携し、各教科年間計画や各種教育年間計画を基に役割分担を明確にして教育活動や環境整備に当たれるよう、円滑なコミュニケーションに努める。

A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。

【数値指標】

全体アンケート「私は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」
⇒教職員の肯定的回答 85% 以上

- ①学校の働き方改革の視点に立って教職員一人一人が、勤務時間を意識し、業務の効率的な実施や計画的な処理に努めていくとともに、リフレッシュウイーク（学年ごとのリフレッシュデー）を設定し意識して勤務するようにしていく。
- ②教職員の負担軽減に向け、学校評価の結果を反映した学校の組織運営の改善や、新しい生活様式を反映した各種行事等の実施方法の改善、PTA や地域協議会との連携を図っていく。
- ③学習情報システムをはじめとした各種システムを効果的に活用し、業務を効率的に進める。
- ④GIGA スクール構想に係る内容について校内研修を行い、全職員が共有することによって、効果的に活用できるようにする。
- ⑤新しく導入されたスクールタクト等を効果的に活用し、ペーパーレス化を図る。

B

- 【達成状況】
- 教職員の肯定的回答 88.6%
- ・昨年度より数値は下がってしまったが、退勤時間等、勤務時間を意識して業務の効率化に取り組むことができた。
 - ・ICT 支援員の支援を受けたり、学習情報システムやスクールタクト、さくら連絡網、ミライム掲示板等を効果的に活用したりすることでペーパーレス化の推進など、業務の効率化が図られた。
- 【次年度の方針】
- ①学校の働き方改革の視点に立って、引き続き、教職員一人一人が、勤務時間を意識し、業務の効率的な実施や計画的な処理に努めていく。特に、時間割編成の見直しなど、教育課程編成の工夫を行ったり、学生ボランティアや ICT 支援員を活用したりすることで、業務の負担を減らすようにする。
 - ②教職員の負担軽減に向け、学校評価の結果を反映した学校の組織運営の改善を図る。また、各種行事等の実施方法の見直し、PTA や地域協議会との連携を推進する。
 - ③ICT 機器を効果的に活用し、PTA に関わる業務や学校業務を効率的に進める。
 - ④GIGA スクール構想に係る内容について校内研修を行い、全職員が共有することによって、効果的に活用できるようにする。
 - ⑤引き続き、児童の学習支援、教員の業務等で、ペーパーレス化を推進する。

5-（1） 全市的な学 校運営・教 育活動の充 実	A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、小学校と中学校が連携した「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。」 ⇒保護者・地域の肯定的回答 80%以上	①義務教育9年間を見通した協力体制を基に、乗入れ授業や6年生の進学先中学校訪問、教科分科会や児童生徒指導強化連絡会等を、目的を明確にして効果的に実施する。 ②地域学校園で行っている小中交流あいさつ運動や6年生への乗入れ授業、各学校の研究授業等の様子について、学校だよりやホームページ等に掲載し、保護者・地域への積極的な発信に努める。 ③地域学校園事務室や、学校一人配置職員の分科会を通して、学校園内の相互支援体制を充実する。	B	【達成状況】 <table><tr><td>児童の肯定的回答</td><td>91.8%</td></tr><tr><td>教職員の肯定的回答</td><td>97.1%</td></tr><tr><td>保護者の肯定的回答</td><td>84.5%</td></tr><tr><td>地域住民の肯定的回答</td><td>94.4%</td></tr></table> ・あいさつ運動や「PTA 秋まつり」の運営等で中学校の乗入れも増え、児童間での交流の機会を増やすことができた。 ・乗入れ授業や中学校との情報交換により、中学校の様子や小学校で見に付けるべき学習内容を確認することができた。 ・地域学校園事務室部会や食育部会など、一人配置職員の交流が活発に行われた。 【次年度の方針】 ①乗入れ授業や6年生の進学先中学校訪問、教科分科会や児童生徒指導強化連絡会等を、目的を明確にして効果的に実施する。特に、学習指導上の工夫や年計作成のための情報交換などを目的とし、「小中一貫の日」に小中の教職員で連携できるようにする。(meet 会議も検討) ②地域学校園で行っている各種活動について、学校だよりやホームページ等に掲載し、保護者・地域への積極的な発信に努める。 ③地域学校園事務室や、学校一人配置職員の分科会を通して、学校園内の相互支援体制を充実する。	児童の肯定的回答	91.8%	教職員の肯定的回答	97.1%	保護者の肯定的回答	84.5%	地域住民の肯定的回答	94.4%
児童の肯定的回答	91.8%											
教職員の肯定的回答	97.1%											
保護者の肯定的回答	84.5%											
地域住民の肯定的回答	94.4%											
5-（2） 主体性と独 自性を生か した学校経 営の推進	A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充	①「魅力ある学校づくり地域協議会」の各部の取組を新しい生活様式に照らしてより具体的に展開するととも	B	【達成状況】 <table><tr><td>児童の肯定的回答</td><td>92.7%</td></tr><tr><td>教職員の肯定的回答</td><td>100.0%</td></tr></table>	児童の肯定的回答	92.7%	教職員の肯定的回答	100.0%				
児童の肯定的回答	92.7%											
教職員の肯定的回答	100.0%											

5- (3) 地 域 と 連 携 ・ 協 働 し た 学 校 づ く り の 推 進	実を図っている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、家庭・地域企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 ⇒教職員の肯定的回答80%以上 「私は、地域や企業の方々と一緒に活動することで学習が充実し、楽しい」 ⇒児童の肯定的回答80%以上	に、特に「防犯・交通安全」や「学校支援」等について広く情報を発信する。学校関係者評価を実施することで、地域の声を反映し、よりよい教育活動を展開する。 ②「横東の子を育む会」を定期的に開催し地域・家庭との情報交換を行うとともに、そこで得た情報を基に安全指導や児童指導を充実させる。 ③地域や企業等と連携・協力した、学年に応じた特色のある効果的な教育活動のあり方を検討し、年間指導計画の見直しを図る。	保護者の肯定的回答 92.6% 地域住民の肯定的回答 94.1% ・地域協議会、たぶりえっぺなの方々に校内環境の整備や掲示物の作成など、学校の諸活動に積極的に関わっていただいたことで、潤いのある学習環境が整ったり、職員の業務改善につながったりした。 ・各種たよりを活用して、活動の様子を保護者や地域に知らせ、安全指導や児童指導に対して協力を得ることができた。 ・コロナ前の規模に戻した「PTA 秋まつり」での催し物が児童の楽しみに繋がっていた。 ・各学年で、地域や多くの企業と協力した校外学習や出前授業を行い、児童の学習活動を充実させることができた。 【次年度の方針】 ①「魅力ある学校づくり地域協議会」の各部の取組を具体的に展開するとともに、特に「防犯・交通安全」や「学校支援」等について広く情報を発信する。学校関係者評価を実施することで、地域の声を反映し、よりよい教育活動を展開する。 ②「横東の子を育む会」を定期的に開催し地域・家庭との情報交換を行うとともに、そこで得た情報を基に安全指導や児童指導を充実させる。 ③引き続き、学年に応じた特色のある効果的な教育活動のあり方を検討し、計画的に地域や企業等と連携・協力する。
6- (1) 安全で快適な学校施設整備の推進	A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 ⇒教職員・保護者の肯定的回答90%以上	①毎月安全点検を実施し、危険個所については迅速な改善や修繕に努める。 ②危機管理マニュアルや避難者初期支援マニュアル（避難所の開設）を整備するとともに、避難訓練や引き渡し訓練等を通して、火事、地震、竜巻、不審者侵入、感染症感染予防対応等の不測の事態への備えを万全にする。 ③新型コロナウイルス感染症拡大防止や熱中症対策予防対策、インフルエンザやその他の感染症の蔓延予防対策など、時期に応じた保健指導・管理に努める。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答 100.0% 保護者の肯定的回答 91.4% 地域住民の肯定的回答 83.3% ・年度当初の計画に従い、安全点検や避難訓練を年間で複数行い、危険個所については迅速に対応することができた。 ・学校設備の老朽化が見られるので、安全点検の担当者をローテーションするなど複数の目で確認する必要がある。 ・時期に応じた保健指導や安全指導を実施できた。 【次年度の方針】 ①毎月安全点検を実施し、危険個所については迅速な改善や修繕に努める。 ②危機管理マニュアルや避難者初期支援マニュアル（避難所の開設）を整備するとともに、避難訓練や引き渡し訓練等を通して、火事、地震、竜巻、不審者侵入、感染症感染予防対応等の不測の事態への備えを万全にする。 ③感染症拡大防止や熱中症対策予防対策、インフルエンザやその他の感染症の蔓延予防対策など、時期に応じた保健指導・管理に努める。

6-(2) 学校のデジタル化推進	A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができています。 【数値指標】 全体アンケート「私は、授業や業務に、デジタルを積極的に活用している。」 ⇒教職員の肯定的回答85%以上	①児童がコンピューターや情報通信ネットワークなどの情報手段に親しんだり、プログラミングの授業で操作をしたりすることを通して、適切に活用する能力を育成できるよう、授業において積極的にICT機器を活用する。 ②学習に役立つ図書及び図書以外の資料を活用して、学習の効果を高められるよう各学年のその時期の授業内容との関連に配慮した教育図書の整備充実や市立図書館との連携等、学校図書館の環境整備に努める。 ③「まなびポケット」の運用に向けた校内研修を充実させ、状況に応じた学習指導ができるよう準備を進めていく。 ④GIGAスクール構想による一人一台のタブレット端末を積極的に使用し、ICT機器を学習に活用する機会を増やしていく。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答 94.3% ・ICT支援員の協力を得ながら「まなびポケット」の運用を充実させ、状況に応じた学習指導ができるよう準備を行った。 ・一人一台のタブレット端末を積極的に使用し、AIDリルや学習アプリを学習に活用する機会を増やした。 ・授業研究でICTを取り入れた授業を行うことで、新たな活用の仕方を学ぶ機会を得た。またそれを全体に共有することができた。 【次年度の方針】 ①児童が情報通信ネットワークなどの情報手段に親しんだり、授業で操作をしたりすることを通して、適切に活用する能力を育成できるよう、積極的にICT機器を活用する。 ②キャンバやカフト等のアプリの運用に向けた校内研修を充実させ、状況に応じた学習指導ができるよう準備を進めていく。
小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	B1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」 ⇒児童・教職員・保護者の肯定的回答80%以上	①児童指導の重点指導項目として、学年経営案・学級経営案の中に位置付け、教職員が具体的な場を通して強化を図れるようにする。 ②引き続き、児童会を中心にあいさつ運動を行い、あいさつの大切さを広め、校内だけでなく登校時にも進んであいさつするよう意識を高める。 ③学年だより、学校だより、地域協議会だより等を通して保護者や地域との連携を図っていく。また、地域学校園全体での取組も合わせて推進していく。 ④児童が時と場に応じてあいさつができるよう、児童指導部からの提案や指示を基に全教職員が同一歩調で真剣に指導に当たるとともに、教師も率先垂範する。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答 91.9% 教職員の肯定的回答 94.3% 保護者の肯定的回答 85.3% 地域住民の肯定的回答 77.8% ・児童会を中心としたあいさつ運動、地域学校園共催のあいさつ運動を実施することで、意識を高めることにつながった。 ・特に学校外での挨拶の意識が低いので、率先して地域で挨拶をするように継続して指導していく。 【次年度の方針】 ①児童指導の重点指導項目として、学年経営案・学級経営案の中に位置付け、教職員が具体的な場を通して強化を図れるようにする。 ②引き続き、児童会を中心にあいさつ運動を行い、あいさつの合言葉（明るく・いつでも・先に・続けよう）を意識させる。 ③あいさつの大切さを感じさせ、校内だけでなく登下校時にも進んであいさつするよう声掛けをする。 ④学年だより、学校だより、地域協議会だより等を通して保護者や地域との連携を図っていく。また、地域学校園全体での取組も合わせて推進していく。 ⑤児童が時と場に応じてあいさつができるよう、児童指導部からの提案や指示を基に全教職員が同一歩調で真剣に指導に当たるとともに、教職員も率先垂範する。

	B2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 85%以上	①「横東小スタンダード」を活用し、授業や生活のきまりを具体的に理解させることにより、基本的な生活習慣を身に付けさせる。また、引き続き、定期的に児童指導委員会を開催し、児童の実態から課題を共有するようにする。「横東小スタンダード」が学校生活に浸透するよう、指導のポイントなどの細かい部分を工夫改善し職員間で共有していく。 ②授業と生活のきまり、社会の一員としてのマナーについて全教職員が同一步調で真剣に指導に当たるとともに、教師も率先垂範する。 ③週ごとに生活目標を設定し、月曜日の朝の放送で放送委員が周知し、帰りの会等で毎日振り返りをするこゝで望ましい生活習慣への意識を高める。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答 92.8% 教職員の肯定的回答 91.4% 保護者の肯定的回答 91.1% 地域住民の肯定的回答 81.3% ・「横東小スタンダード」を基本とし、共通理解を図りながら指導することができた。 ・児童指導委員会を開催することにより、児童の実態把握やきまりの確認を適宜行うことができた。 【次年度の方針】 ①「横東小スタンダード」を活用し、授業や生活のきまりを具体的に理解させることにより、基本的な生活習慣を身に付けさせる。 ②引き続き、定期的に児童指導委員会を開催し、児童の実態から課題を共有するようにする。「横東小スタンダード」が学校生活に浸透するよう、指導のポイントなどの細かい部分を工夫改善し職員間で共有していく。 ③授業と生活のきまり、社会の一員としてのマナーについて全教職員が同一步調で真剣に指導に当たるとともに、教師も率先垂範する。 ④週ごとに生活目標を設定し、月曜日の朝の放送で放送委員が周知し、帰りの会等で毎日振り返りをするこゝで望ましい生活習慣への意識を高める。
	B3 児童は、授業や集団活動の開始時刻をきちんと守れている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、授業や集団活動の開始時刻を守っている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 80%以上	①ノーチャイムで日課を運営することにより、児童が時計を見て行動できるようにする。清掃開始時刻については、曲を流して知らせ、守れるようにする。 ②児童の生活実態に応じて、随時、週の生活目標や学年・クラスの行動目標に設定するとともに、高学年児童が時間を守ることを率先垂範できるよう指導していく。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答 94.6% 教職員の肯定的回答 97.1% 保護者の肯定的回答 78.8% ・ほとんどの児童が時計を見て行動できている。 【次年度の方針】 ①ノーチャイムで日課を運営することにより、児童が時計を見て行動できるようにする。清掃開始時刻については、曲を流して知らせ、守れるようにする。 ②児童の生活実態に応じて、随時、週の生活目標や学年・クラスの行動目標に設定するとともに、高学年児童が時間を守ることを率先垂範できるよう指導していく。

B 4 漢字の読み書きや計算力の定着を図っている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、学習した漢字を正しく読み書きしたり、基本的な計算を正しく計算したりできる。」⇒教職員・保護者の肯定的回答 80%以上	①基礎基本の定着を図るための指導法の研究をする。さらに、「計算オリンピック」「漢字オリンピック」の出題範囲を明確に示したうえで練習期間を設けることや、個人の達成目標をもたせることで、学習意欲を高めるとともに、定着を図る。 ②少人数指導や習熟度・ＴＴ学習などの体制による授業を展開し、学力の向上を図る。 ③「家庭学習の手引き」を基に低学年から家庭学習の習慣化の重要性を個人懇談の場や学年だより等で保護者に伝えたり、１人１台端末を活用したりして、学年の発達段階に応じた家庭学習を習慣化させる。 ④朝の学習や家庭学習において、端末を積極的に活用していく。	【達成状況】 児童の肯定的回答 88.1% 教職員の肯定的回答 100.0% 保護者の肯定的回答 83.3% ・多くの児童が漢字計算オリンピックに意欲的に取り組んでいた。 ・家庭学習の手引きを活用した指導の徹底や保護者への周知により、家庭学習の習慣化が図られてきた。 【次年度の方針】 ①基礎基本の定着を図るため、朝の学習や家庭学習において、ドリルや端末を活用していく。 ②少人数指導や習熟度・ＴＴ学習などの体制による授業を展開し、学力の向上を図る。 ③「家庭学習の手引き」を基に低学年から家庭学習の習慣化の重要性を個人懇談の場や学年だより等で保護者に伝え、学年の発達段階に応じた家庭学習を習慣化させる。 ④「計算オリンピック」「漢字オリンピック」の出題範囲を明確に示し、練習期間を設けたり個人の達成目標をもたせたりすることで、学習意欲を高め、定着を図る。
B 5 児童は読書活動を楽しんでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「自分は、読書をするのが楽しい。」⇒児童・教職員の肯定的回答 85%以上	①読み聞かせボランティアや図書委員会の児童による取組、図書館司書の授業参画、図書館の環境整備、読書センターとしての機能の充実を図る。 ②朝の読書や図書館の利用指導の充実、読書貯金通帳の効果的な利用、図書室の本を利用した学級文庫作りの工夫、図書委員会の活性化を図る。 ③読書の時間や読み聞かせの時間、図書だよりの発行などを通して児童の読書意欲を喚起する。 ④図書だよりや学年だより等を通して読書の必要性やお薦めの本などについて知らせ、特に家庭での読書（家読）の啓発に努める。	【達成状況】 児童の肯定的回答 86.0% 教職員の肯定的回答 100.0% 保護者の肯定的回答 69.8% ・読み聞かせや朝の読書、図書室の本を利用した学級文庫作りの工夫、図書委員会の活動により、児童は読書を楽しむことができた。また、図書館移転により学習環境が整備され、学習利用頻度が増加し、充実した学校図書館指導ができた。 【次年度の方針】 ①読み聞かせボランティアや図書委員会の児童による取組、図書館司書の授業参画、図書館の環境整備、読書センターとしての機能の充実を図る。 ②朝の読書や図書館の利用指導の充実、読書貯金通帳の効果的な利用、図書室の本を利用した学級文庫作りの工夫、図書委員会の活性化を図る。 ③読書の時間や読み聞かせの時間、図書だよりの発行などを通して児童の読書意欲を喚起する。 ④図書だよりや学年だより等を通して読書の必要性やお薦めの本などについて知らせ、特に家庭での読書（家読）の啓発に努める。

	B 6 児童は、正しい言葉づかいをしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、時と場に応じた言葉づかいをしている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 80%以上 「自分の子どもは、大人に対して適切な言葉づかいをしている。」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	①児童指導の重点指導項目として、学年経営案・学級経営案の中に位置付け、教職員が各教科や生活の中で、時と場に応じた言葉づかいを適宜指導し、強化を図れるようにする。 ②学年だより、学校だより、地域協議会だより等を通して保護者や地域の方にも正しい言葉づかいについての指導の協力を求めるとともに、大人が率先垂範するよう呼びかける。 ③校内に正しい言葉遣いを啓発する環境整備を行い、意欲喚起を図る。	【達成状況】 <table><tr><td>児童の肯定的回答</td><td>90.7%</td></tr><tr><td>教職員の肯定的回答</td><td>94.3%</td></tr><tr><td>保護者の肯定的回答</td><td>82.1%</td></tr></table> ・授業中や休み時間など、その都度指導してきているので、時と場に応じた言葉遣いができている児童が多い。 ・学年の発達段階に応じて、適切な言葉遣いできるように継続して指導していく。 【次年度の方針】 B ①児童指導の重点指導項目として、学年経営案・学級経営案の中に位置付け、教職員が各教科や生活の中で、時と場に応じた言葉づかいを適宜指導し、強化を図れるようにする。 ②学年だより、学校だより、地域協議会だより等を通して保護者や地域の方にも正しい言葉づかいについての指導の協力を求めるとともに、大人が率先垂範するよう呼びかける。 ③校内で正しい言葉遣いを啓発する活動を行い、意欲喚起を図る。	児童の肯定的回答	90.7%	教職員の肯定的回答	94.3%	保護者の肯定的回答	82.1%
児童の肯定的回答	90.7%								
教職員の肯定的回答	94.3%								
保護者の肯定的回答	82.1%								

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

アンケートの結果は昨年度ほぼ同程度であった。市全体の平均ともほぼ同じである。

自由記述欄には、学校や児童の様子について様々なご意見をいただいた。肯定的な意見や改善すべき提案などがあつた。授業参観やHP、各種便り等で学校の様子を見ていただいた結果と考える。今後改善すべき点については検討をしていきたい。

【学校運営】

A 1 6 「勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」に関して、数値はわずかに下がったが、ICTの活用やペーパーレス等により、勤務時間を意識した業務の効率化が図れている。

A 1 8 「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」に関して、校外学習に出掛けたり、家庭や地域をはじめ、企業等の連携・協力を得たりして、教育活動の充実を図ることができた。

【学習指導】

○ A 1 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、個々の考えをつなぐ発表の仕方を指導するための話型や発表方法の掲示等を学校全体で統一したり掲示を工夫したりする。

A 9 「持続可能な社会」について言葉をかみ砕くなど児童に分かりやすく身近な取組等を伝えとともに、教職員の意識も高めていく。SDGsの歌を活用するなど学校生活の中で児童がSDGsに触れたり考えたりする機会を設ける。

B 4 基礎基本の定着を図るため、朝の学習や家庭学習において、ドリルや端末を活用し学力の向上や意欲を高められるようにする。

【児童指導】

A 1 3 「学校は、一人一人が大切にされ、活気があり明るくいいききとして雰囲気がある。」に関しては、主体的・対話的で深い学び意識した授業展開を実践すること達成感を味わわせることができた。委員会活動や縦割り班活動の更なる工夫や充実を図り、児童がいいききと学校生活を送れるようにしたい。

B 1 校内において児童会の取組を工夫したこともあり、挨拶がよくできている児童が増えている。挨拶の大切さを感じさせることを通して、校外や地域の方にも元気に挨拶ができるよう継続的に指導していく。

B 3 ノーチャイムでも時間を意識して生活することができている児童が多い。下校時刻についてはさらに意識していきたい。

【保健安全】

A 4 「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」については、地域の方の指標が下回った。児童の感染症への予防意識が低下しているように見られる。持久走月間がなくなったため、体育でのサーキットトレーニングの充実や外遊びの習慣化を図っていききたい。

A 1 9 「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている」に関しては、地域の方の肯定的回答が指標を下回った。安全点検をローテーションで行うなど複数に目で安全確認を実施していく。

7 学校関係者評価

- ・あいさつについて、個人差があるように思う。上級生が元気に聞こえる声であいさつをすることで、下級生にもよい手本となると思う。
- ・デジタル機器について、スマホやタブレット等使い方について低学年から指導していく必要がある。外部講師等を活用し親子で学ぶ機会を作るとよいと思う。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・全般的に評価が高く、教職員が熱心に学習指導や児童指導、保健安全指導に取り組んでいることを評価していただいたと考える。今後も、教職員が共通理解の下、児童が安心・安全に学校に通いながら生き生きと学習や活動に取り組むことができる学校づくりに励むとともに、学校の児童の様子や家庭・地域との連携についての取組について積極的に発信し、信頼される学校づくりに努めていきたい。

【学校運営】

○家庭・地域・企業等との連携協力については、これまで積み重ねてきた信頼関係のもと、校外学習や外部講師の方に出前授業を行うなど、積極的に取り組んでいきたい。

- ・働き方改革の視点を再度確認し、教職員一人一人が勤務時間を意識して業務の効率化や計画性をもって取り組めるようにしていきたい。

【学習指導】

○分かる授業やきめ細やかな学習指導については、「宇都宮モデル」を意識した授業づくりや主体的な学びにつながる ICT の効果的な活用、教員の専門性を生かした教科担任制などを実施していく。

- ・持続可能な社会についての学習では、節水の呼び掛けやアルミ缶回収など、児童を主体とした活動を通して意識の向上を図るとともに、身近な取組が持続可能な社会に結びついていることを認識できるような指導の工夫を行うようにする。
- ・朝の学習の時間のさらなる充実を図るや掲示物の工夫を行い基礎基本の定着を図る。また、家庭学習の習慣化を図れるように、「家庭学習の手引き」の配付や学級懇談会や各種便り等を活用しながら家庭と連携していきたい。
- ・読書貯金の効果的な利用を進めるなど、読書活動の充実を図る。

【児童指導】

・学年担任制の試行（学級活動や給食等）やローテーション道徳等を軸に、児童一人一人に複数の教職員が関わる機会を設けながら、よさや可能性を生かし伸ばす取組を進めていきたい。

- ・「横東スタンダード」による望ましい生活習慣の形成や「横東小キラリ賞」等を活用した自己肯定感の醸成により、豊かな心を育む教育活動を推進していく。

○縦割り班活動の充実など友達や異学年児童との様々な関わりを通して、互いに認め合い、助け合い、励まし合える豊かな人間関係を築くことができるような教育活動を推進していく。

- ・いじめ対策への取組については、道徳の授業や学級活動の話し合いを中心に、各教科指導において人権に関する内容を繰り返し指導するとともに、「いじめゼロ集会」などの学校の取組を学校のホームページや各種たよりで家庭や地域にも知らせ、理解と協力を得ながら進めていきたい。

【保健安全】

○「横東サーキット」の活用や体育の各種検定、外遊びの推奨などにより、主体的に健康な体づくりに取り組む力の醸成を図っていく。

- ・交通安全教室や避難訓練の実施、集団下校の際の指導の場を生かして、自ら危険を予測して回避できる力を高める教育活動を推進していく。
- ・発育測定や歯の健康教室、養護教諭による授業参画や感染症予防の啓発などにより、自分自身の健康や成長への関心を高める取組を推進し、意識向上を図っていく。